

協議会ニュース

33号

愛知県自然観察指導員連絡協議会

1991.5



目次

- 子どもたちを自然の中で遊ばせよう (金森正臣) (1)
- 協議会行事報告 (理事会、総会、運営委員会) (2)
- 協議会行事への意見 (アンケート葉書より) (3)
- 会員近況 (アンケート葉書より) (4)
- 自然だより (岩田不二子、後藤 春、北岡由美子、加藤寿芽、
 日比野修、石川静雄、星野芳彦) (5)
- ちょっとひねった自然観察Ⅱ「ショウジョウバカマの不思議」 (北岡明彦) ... (7)
- 観察会報告 (香嵐溪探鳥会、猪高緑地春の自然観察会、小牧市大山観察会) ... (8)
- 年報「愛知の自然観察」原稿募集のお知らせ (9)
- OPINION (北岡明彦) (10)
- 新聞スクラップ (10)
- 支部だより・他団体の機関誌より (11)
- 廃品を利用した実験観察器具等の工夫① (竹内哲也) (14)
- 観察会・研修会の御案内 (15)

子どもたちを自然の中で遊ばせよう

金森正臣

協議会の10周年記念大会の討論会に出た問題について、問題を提議しておきたいと思います。

河合先生の講演の中に出てきましたヒトが持っている「内なる自然」をどのように各人の人生の中に甦らせて行くかです。先生は 490万年の歴史の中を自然の中の生物の一員として生きてきたので、自然に安らぎや楽しさを感じたりすると話しておられました。自然から切り離されて子どもたちが生きなければならなくなったのは、最近の20~30年間のことです。安らぎや楽しさの原点に接することの少なくなった子どもたちは、様々なストレスに悩み、苦しんでいます。それが何によるのかさえもわからないままにいます。

兵庫教育大学の理科教育の山田卓三教授は、自分の成育環境と現在の子どもの成育環境を比較して、テレビの前で生まれた子どもにとってはテレビがあることが自然であることを指摘しています。この考え方は現在の社会現象を考える時に重要な意味を持ってきます。子どもたちが歩くことを嫌ったり、労働をすることを嫌ったりすると「最近の若者たちは....」言いたくなりますが、実は単に経験がないだけかもしれないのです。ほとんど接したことのない自然を、カに刺されたりクモの糸が粘り着いたりする中で好きになれといっても困難なことでしょう。

本来ならば、家の前の水溜りで遊ぶことから始まり、しだいに未知の世界を求めて遠出するようになります。夢中になって魚取りをしたり、アケビを取ったりしているうちに、自然の中に入っているのです。ところが、現在では家の前の水溜りから亡くなっており、子どもが自然の中に出かけて行く最初の段階から存在しません。また水溜りがあったとしても、時間のありあまる母親が止めたり、保育園に預けられたりして接する機会はありません。また、テレビや漫画

によって時間を取られ、外に出て遊ぶ機会が少ないのです。

このような状況の中で育ってくる子どもたちが、内には自然に対する要求を持っていたり、引き出してやらなければ外に対する興味や関心を持ってなくて、当然のことにように思われます。むしろそのことを前提として考えるべきだと思います。皆さんはどのように考えられますか？

次に、ヒトが自然の中に入って行くためには、人工の加わった管理された自然から、次第に人工の少ない自然に入って行くのが本来の姿のように思われます。特に年齢に応じたプログラムを考える時にはこの点が考慮される必要があるように思われます。人工的な管理がされての方が小さい子どもには安心感があるようです。大人になると良いガイドさえいれば、突然に深山でも十分楽しめるようですが、皆さんはどのように考えられますか？

もう一点は、採集の件です。多くの自然観察会や教育の場で動物や植物の採集の是非が議論されて久しくなります。しかし、納得されるような意見ができ上がっているとも思われません。

採集に反対する意見は、採集による種の乱獲で絶滅する危険があることを、生命を軽んじるようになることなどが主な理由と思われます。賛成する意見は、実際に十分観察するには、手に取ってみななければならないこと、十分な興味を育てるには接してみることが不可欠なことなどが理由になっています。

私の考えを述べますと、ある段階では採集が必要であろうと考えています。小さい子どもが採集できるのは、普通種で通常繁殖力も強く絶滅するおそれの無いものが多いのです。その段階では子どもの心の中に、残酷さや冷酷さはまだ育たず、生きているものを確認しているだけのように思われます。小学校の高学年ぐらになりますと、他の人々に自慢するために取るよ

うになります。この頃になると、生命に対する客観性も持てるようになっており、残酷さも育つように思われます。そして、貴重種を集めたり、たくさん集めたりして問題が起きるようになると思われます。これは低学年における興味

協議会行事報告

【理事会】

● H 3. 2.23 於産業貿易館 (出席12名)

① 平成2年事業実績について

② 平成3年事業計画について

調査のうち、哺乳類調査は従来資料収集とともに、ムササビを重点的に行う。ため池調査は2年度限りとする。

機関誌は、隔月発行と年報の2本立てとし、年報は、行事結果・自然観察会の実践・自然観察の方法・地域の自然の観察等を内容とする。

③ 運営委員の選出

本年は、組織の見直し中であり、必要に応じて委員を選ぶこととする。

④ 協議会の略称

会員から募集してやることとする。

⑤ 顧問の推薦について

愛知教育大学の金森先生に依頼する。

⑥ その他

指導員再登録に関し、特別措置を本年も続けるよう依頼する。

今後の理事会は、9月・11月頃開催する。

【総会及び講演会】

● H 3. 3.24 於産業貿易館 (出席45名)

(1) 総会

〔議案〕

・平成2年度事業報告及び決算について

・平成3年度事業計画及び予算について

全て原案どおり承認される。

〔主な意見等〕

・観察会のフィールドが少なくなることに対し協議会の意見がないのはおかしい。自然を守

とは連続していないことが多いと思います。

このような子どもたちの成長の段階を考慮しながら、自然への接し方を考える必要があるように思いますが、皆さんはいかがですか？

るための要請活動等を行うべきではないか。

(回答：会員は別として、協議会自身は保護活動を行わない方針を持っている。しかし、保護のための調査研究や情報収集は大切なことであるので、今後検討したい。)

・指導員派遣の場合の収入を協議会の予算に計上すべきではないか。

(回答：委託でなく、指導員に対する謝金として払われたものは、協議会の収入にはならないと考える。)

・会費の未納者に対する対応はどうか。

(回答：2年以上の未納者は約30名いるが、請求を今後も続けていき、秋過ぎに理事会で検討したい。)

(2) 講演会

愛知教育大学の金森教授による「愛知県の哺乳類の種類と生活」についての講演

【運営委員会】

● H 3. 3.24 於産業貿易館

〔運営担当〕 出席10名

① 全県一斉自然観察会について

テーマは森に関するものとし、森の仕組み・森の役割・土壌生物などを内容とする。統一テキストを作成する。PRは、協議会と支部の両方で行う。県教育委員会の後援を申請する。

② 今後の事業の進め方について

〔調査担当〕 出席7名

① ブナ科樹木分布調査

今後のスケジュールは、現地調査を平成4年3月まで、とりまとめを4年12月まで、報告書作成を5年3月までとする。

② 哺乳類分布調査

－ 協議会行事への意見 －

(3月のアンケート葉書から)

〔主な意見〕

- ・各種行事への参加者をいかに増やすかが問題です。女性指導員の参加や一般の女性による参加の定着も一つの方法と思われます。
- ・植物の名前などなかなか覚えられなくて、何回か同じことを聞くのも迷惑かという聞きそびれてしまいます。
- ・研修会の案内には、内容・レベルなどを詳しく書いて欲しい。
- ・協議会として、地域の自然の保護に対する考えを示して欲しい。
- ・環境問題に意識の高いリーダーとして活動できるよう、環境保護思想の理念に基づいた姿勢を備えた会でなければならない。
- ・今後は、観察会と同じ位、データの整理や研究発表、討論の場が必要となるようです。
- ・自然観察の要求は強まっており、一般公募の観察会を増やし、PRにも努める必要がある。
- ・支部活動が活発化するように、協議会でもPRに努めて欲しい。
- ・協議会以外でも活躍している人の紹介など会の幅を広げること。
- ・協議会からの指示はなるべく少なくして、支部にまかせて欲しい。
- ・協議会の行事は少なくして、個人の活動を支援するようにするのはどうでしょう。
- ・自然観察指導員の再登録に関して、自然保護協会の会員にならないでもすむ措置を講ずるのはおかしいではないか。

〔事務局から〕

- ・協議会の行う研修会等の行事への参加者が少ないのは会の設立以来の傾向です。原因としては、研修会等のテーマや内容が楽しくないことか、研修等の目的ややり方が明確でないため初心者にとって知識を積み重ねていけないことの

2つが考えられます。研修の方法や観察会の進め方については、今後じっくりと検討していきたいと思っています。

・自然保護や環境問題に対する協議会の対応は確かに不十分だと思います。自然観察会にしてもこうした考えに裏打ちされたものでなくてはならないでしょうし、会員に対する情報提供や意見交換の場を設けることは会の使命だと思います。自然観察会の実施方法とともに、今後の課題として取り組んでいきたいと思っています。

・協議会の活動と、支部や個人の活動との調整は占くて新しい問題だと思います。基本的には会全体として多くの人の力を集めることによって、より良い活動を進めることができ、それが支部や個人の活動を支援することにもなると考えています。協議会の活動を拡大していくことは考えていませんが、変化と着実性をもって一定の規模で継続していきたいと考えています。

・自然観察指導員の再登録に際して、必ずしも自然保護協会の会員にならなくてもよいような特別措置を講じていただけてます。これは今までの経過から、協会の会員となることを強制すると再登録を止める人が増えることを懸念したための暫定的な措置です。従って、当面3年程度続けて、その後は改めて検討したいと考えています。なお、自然観察指導員がどのような考えで、何をする制度かが不明確になってきているような気がしますし、今後類似の制度が増えることも予想されますので、自然保護協会との話し合いも必要と思われます。





－ 会 員 近 況 －

（3月のアンケート葉書から）

本年度は、今の勤めをしながら、町内会の仕事も引き受けざるを得なくなり、自然観察会の活動が十分できるか心配です。（石川静雄）

瑞浪市では、中国からシデコブシを視察に来たり、シデコブシを守る会ができたり、逆にシデコブシの自生地ゴルフ場ができつつある、そんな地域です。市民も役所も少しづつは自然に関心が増しているのではないのでしょうか。

（小栗昭治）

身近な自然、一宮市の隣の江南市、木曾川から取水する宮田用水路付近を時々見て居ります。

（後藤 春）

新川町のふる里づくり事業の一環として、新川河畔を公園にしようと、5年目を迎えた新川美化運動と併せて、また忙しくなりそうです。

（近藤清隆）

久しぶりに、尾張支部の観察会に参加しました。ジュースの自動販売機も全く目にせず、自然の中で一日を過ごせました。（清水多恵子）

途中でいろいろ観察しながらの登山を楽しみにしています。（杉山茂生）

引っ越したのを契機に、環境を考える上で出発点となる生活面をとらえ、買物袋・過剰包装・食べ物・洗剤などに気を配っています。酸性雨や飲水の水質等も関心をもっています。

（鈴木成和）

昨年は仕事に追われて休日もままならぬ1年でしたが、思い切って春休みに遠出をして、久々に自然の良さを味わってきました。

（鈴木温子）

東山公園整備に関して、野鳥の会愛知県支部としての考えを示すため、役員を受けました。また、藤前干潟の総合調査のまとめをやっており、5月にまとまる予定です。（武田 篤）

港社会教育センターの「身近な環境・地球の環境」での担当など、生涯学習講座の講師活動が増えました。（広瀬 鎮）

相変わらずの山狂いです。3月1日～3日まで白馬の雪上観察会に参加しました。

（福西寿広）

今年から足助町の老人クラブが主体になっている足助山野原研究会の顧問になりました。もらえるような熱意と実行力をもった人々が集まっているので、やがて県下にその名が伝わるものと確信しています。（三津井 宏）

退職以来ますます元気に頑張っています。協議会ニュースは、活動の様子もわかり楽しく読ませてもらっています。（池田芳雄）

例の如く、開発に伴う自然環境調査です。弁当を担いで山歩き。冬の間は、ワープロの報告書づくり。（権田昭一郎）

早いもので退職して2年たちました。名古屋の動植物専門学校へ行く以外は余裕があり、各地を好きな時に歩いて植物観察を楽しんでいます。待ちに待った春が来て、自然界が急に賑やかに成り、嬉しい季節です。（佐藤徳次）

自然だより



匂いと臭い

岩田不二子

植物図鑑の記述の中に「におい」の有無がほとんどないのはどういう訳でしょう。「におい」には、匂いと臭いがあり、普遍性があるとはいっても、好みは大変違ってきます。それで、記述がないのでしょうか？

私の実父は「におい」にとっても拘る人でしたので、私も「におい」が気になります。ボダイジュの花が咲き始めると、父を思い出します。父の愛用のオーデコロンによく似た匂いがするからです。亡夫は、カラタネオガタマの花の匂いがお気に入り、バナナのようなのだといっていました。これは折り採ると、匂いも失せてしまいますが、殆どの花は、夜になると香りが強くなるようです。

ウメ・ローバイ・クチナシ・ライラック・フジ・ミカン・ヒイラギ・モクセイ・スイセン・ヒヤシンス等好きな匂いです。ナノハナにはアンモニア臭があり、チャの花は少々ホコリ臭いけれど、嫌いという程ではありません。

散策の折に、そこはかたなく漂って来る、スイカズラ・テイカカズラ・センニンソウ・クズの香りの清々しさは、えもいわれず、風を待って立ち尽くす事が度々です。

楚々としたキクザキイチゲは上品な匂いを放っていて、森の妖精を見付けたような気がしました。御存じでしょうか？ジャノヒゲの花も名に似合わず、可愛くていい匂いがします。フジバカマは枯れた後も、全草がいい匂いを保っています。以前、屋久島で、乾燥させて箆簞に入れる、という草を見付けました。名前はメモしなかったのを忘れてしまいましたが、乾いたら香木のような匂いがしたのを覚えています。フジバカマも箆簞に入れるといいかもしれません。

只今、ハーブの栽培やポプリ作りが流行していますが、私は単純な生の花の匂いが好きです。一年中、何所かで何かが匂っている、そんな庭

にしたいと思っています。

クサギ・オミナエシ・ヘクソカズラ・ドクダミ・オドリコソウ・キゲマン・ゼラニウムやマリーゴールド等は、そのものが悪臭を持っていて我慢出来ません。触れないでソッとしておきましょう。

桜餅の桜の葉は、塩漬けされて美味しそうな匂いなのに、ひどく臭いものがあります。枯葉に悪臭は無いのです。濡れ落葉の臭いには、ほんとに困ってしまいます。いえ、濡れ落葉といっても、これはウワミズザクラの話です。



春雨の尾張野

後藤 春

3月20日、昼前からポツポツ雨が落ちていましたが、午後2時頃新木曾川駅を出て、東も向かって歩き始めました。まず大分ふくらんだコブシの枝先、北の山々はかすみの彼方。

町の近くはガチャン、ガチャンと織の音、少し離れると農家、そして田や畑が交互に織り込まれ、スズメ20羽程、カラスが電柱に。22号線を潜り、北へ進む。晴れていればこのあたりヒバリの声も聞こえるだろうに....

田畑のあぜには、レンゲ・ナズナ・ハコベ・オランダミミナグサ・タネツケバナの花やヨモギの若芽もひろがり、これはまさしく箱庭の感。

足どり軽く島村の林を目指します。若栗(わ)神社のアオハダ

(大樹)はまだ冬芽のままでしたが、ナンジャモンジャの梢は今にもはじけそうに丸く、サクラの枝のツグミ3羽は何時頃旅立つのでしょうか。

ホーホケキョと一声。



オランダミミナグサ

ものみ山情報（瀬戸市）

北岡由美子

4月のものみ山は花盛りです。山裾から山頂まで、ずーと、ショウジョウバカマが咲き乱れ、クロモジ・ダンコウバイ・キブシの花も満開です。続いてナガバノモミジイチゴやムシカリの花が咲き始め、この季節から夏まで、海上（か）周辺は花が絶える時がありません。

山を降りて海上の部落に入ると、田の畔や土手には、レンゲ・タネツケバナ・ノミノフスマ（とても美しい）を始め、青い星をこぼしたようにハルリンドウが咲き乱れています。そして田の間を“春の小川”がさらさら流れており、まさに日本の農村の美そのものの風景です。この風景を見て、こんな所を団地にしたり、万博会場にするなんて....このまま文化遺産として残せないだろうかと言う人も多いのです。

5月には雑木林も春らんまんとなり、ヤマボウシ・エゴノキ・ウツギなどの花が咲き出します。御家族でのんびり散策されてはどうでしょうか。

知多からの自然だより

加藤寿芽

アカガエル 2、3月 アカガエルの産卵の時期です。親ガエルは産卵すると再度冬眠するので姿は見られませんが、卵塊は主として田圃（冬場でも水が絶えず流れている）で見つかります。知多半島での分布調査しています。

トウキョウサンショウウオ 平成2年4月、阿久比町の農業用水路で小生が見つke、中日新聞でも紹介されました。昭和42年度出版の「愛知の動物」で、知多半島では絶滅！でした。東海市の「ホタルを守る会」の会員に飼育を依頼、今では6cm位に成長しています。平成3年の4月現在で、卵のうは88個、見つかっています。阿久比町としては、保護を考えていないので、半田市の半田空の科学館でも飼育し、現地の環境とよく似た地域を探し、放流をと考えています。阿久比町以外、知多市、半田市と阿久比町の境とで見つかっています。

ミカワバイケイソウの芽生え

日比野 修

3月31日、夕方から瀬戸市曾野町稲荷神社裏の自然休養林へ、ミカワバイケイソウの芽生えを見に行きました。

山の南斜面に広がる半の木林の中に、シデコブシの淡いピンクの花が、霞むように見え隠れています。その中を、縫うように流れ下る小川は、昨日までの雨で水量を増して、音をたてています。

流れに沿って広がる、ミカワバイケイソウの群落は、もう40～50cmに育って、大きな葉を4～5枚開かせています。茎の先には、柔らかな葉に包まれた、小さな、小さな、カリフラワーのような花芽をのぞかせていました。

此の分だと、4月20日頃から咲き始めるでしょう。

三日月形の葉を、びっしりと敷き詰めた、アギスミレの群落も広がっています。

その中に、もう20cmほどの、掌状の葉を、2～3枚ずつ開かせたハンカイソウの芽生えも見られます。ハンカイソウが黄色い大きな花を咲かせるのは、5月中旬頃でしょう。

よみがえった植物

石川静雄

今から17年前、県道の改良拡中工事で宅地造成工事で、この地域（桜淵公園周辺）から完全に姿を消してしまったものと思っていた、ユウスゲ（ユリ科）を3年前の7月中旬に、ホタルカズラ（ムラサキ科）をその翌年の4月下旬に、ヒナハアマナ（ユリ科）を昨年3月上旬に、それぞれ造成された斜面の樹下又は草地で確認、観察することができた。十数年ぶりの対面に感激ひとしおであった。しかし、まだ対面することができないコバイモ（ユリ科）をはじめ、ホタルサイコ（セリ科）、マツバニンジン（アマ科）、シュロソウ（ユリ科）等、当時消滅してしまった貴重な植物が再び私たちの目の前に出現してくれることを、ひたすら願っている。

片道30キロの通勤バードウォッチング 星野芳彦

通勤距離が長いのは、苦勞もありますが、季節の変わり目に、思いもよらぬ出会いがあり、心はずみます。去る3月26日の記録を御紹介します。

午前7:15 自宅(豊明市)近くで、キジバト・ヒヨドリ・スズメ・トビ・モズをみつけました。勤務先の西尾市までは、知立バイパスを利用します。平日の朝は、たいてい渋滞のためにはぼノロノロ運転となりますが、これが効を奏して、逢妻川にカルガモやコガモが車のウィンドウ越しに観察できます。

午前8:10 矢作川を渡ると、夏羽にかわりつつあるユリカモメが上空を横切り、川面にはカワウの姿もあります。

午前9:40 休み時間にふと、校舎の窓から中庭に目をやると、若芽の出始めたケヤキの枝に、2日ころからよく姿を現すシメ2羽、別の枝にシジュウカラの番いが目にはいります。

午後3:30 (春休み中なので、少し早めに

仕事をきりあげて) 最近、よく通っている岡崎市の乙川にかかる大平橋の下流に行ってみました。15分ほどでカイツブリ・イソシギ・カルガモ・コガモ・コサギ・ツグミ・ハクセキレイ・セグロセキレイ・キセキレイ・ヒヨドリがすぐ見つかります。まもなく、上空に、ツバメ・イワツバメの群れが飛び交いました。

約30分後、ヒレンジャクの20数羽の群れが、近くの枝に止まりました。今春は、各地で、ヒレンジャクが多く飛来していると、鳥仲間から聞いていましたが、まさにそのとおりです。

対岸の土手には、カワセミの巣穴があり、カワセミのペアがしきりに交替で、出入りをしています。偶然にも、いつもの止まり木で、求愛給餌を観察できました。産卵も間近だろうと思われます。

この日、朝家を出て、帰宅するまでに、22種類の野鳥を確認しました。いよいよ渡り鳥のシーズン到来です。これからは夏鳥たちの出会いを夢みる片道30キロとなりそうです。

——ちょっとひねった自然観察 II——

ショウジョウバカマの不思議

尾張支部 北岡明彦

今回はショウジョウバカマにスポットをあててみました。

まず、花をじっくり観察してみましょう。花弁は6枚、雄しべは6本、雌しべは3室とすべて3数性となっています。これはユリ科とアヤメ科の特徴です。

次に花に集まる昆虫→受粉の媒介者(ポリネーター)を観察してみましょう。横向きに咲く花は、あまりチョウに好まれません。下図のようなハナバチやアブの仲間が主なポリネーターとなります。花の形・大きさ・色・

構造とポリネーターの種類の関連性は、大変おもしろいテーマとなります。



マルハナバチ



ビロードツリアブ

もうひとつ、ショウジョウバカマのおもしろい観察ポイントは、その繁殖方法です。

葉の先をよく見ると、先端に小さな葉と白い根を出した小苗がついているのが見つかります。この無性生殖と、風に飛びやすい小さく軽い種子を多数作る有性生殖によって、彼女達は林床一面に群落をつくることのできる訳です。

植物や昆虫を1種類ずつじっと眺めてみるのも、ちょっとひねった自然観察です。



観 察 会 報 告

香嵐溪探鳥会（飯盛山自然観察会）

西三河支部 水鳥富人

3月17日（日）西三河野鳥の会主催の香嵐溪探鳥会に参加させていただいた。

ビーッ ビーッ、ヤブツバキの蜜を吸いに來たヒヨドリに追われるようにシジュウカラ・ホオジロ・エナガ等が梢を移動する。ヤブツバキの深紅の花がそのつややかな葉に映えるのはまだ落葉樹が芽生ぶかない早春のためだろう。アオキの朱い実も鮮やかだ。キブシが黄色の花を下げるにはあと4・5日かかる。

湧き水の流れの中のクレソンが人里を感じさせる。野生のエノキタケは栽培物とは違う輝きを放っている。白い花をこぼれるように付けているのはユキヤナギ、アセビは淡いピンクのちょうちんを鈴のように下げている。

芽生え前の樹間に巴川の川面が光る。雄のカワガラスが潜ってとった餌を岩の上の雌に求愛給餌している。キセキレイの黄色が腰までなのは若いからだろうか。つがいと思われるセグロセキレイに場を譲ったキセキレイの飛跡を追うと・・・ブルーのカワセミが一直線に飛び去った。

川向こうは芽ぶき前の木肌色の飯盛山(254m)、古代人はこの山そのものを信仰していたという。小さくても厳かな山だ。黒い瓦は淡緑の杉の木立の中の香積寺(カキヅキ)、梅の白さがまぶしい。寺の裏手にはモミの大木、山の上にはトビが悠然と飛んでいる。

赤い吊り橋を渡ると道端に、オオイヌノフグリが小さいながら青空を映した様な花を広げている。リュウノヒゲの葉陰には碧い竜の眼が輝いている。同行の御婦人が碧い果皮の下の白い種を取り出して、まりつきのように道に弾ませる遊びを教えてくださいました。境内のスギゴケは胞子囊を膨らませている。コツボチウチンゴケもある。メジロが蜜を吸う梅の幹をウメノキゴケ・ノキシノブ・各種のラン

が被っている。キッ キー 梢を2羽のコゲラが舞うカエデの林床にはククザキイチリンソウが白い五弁のはなびらを付けている。ククザキとは小さいという意味。カタクリ・フタリシズカのつぼみが膨らみかけている。ウバユリ・キツネノカミソリの芽ぶきがまぶしい。

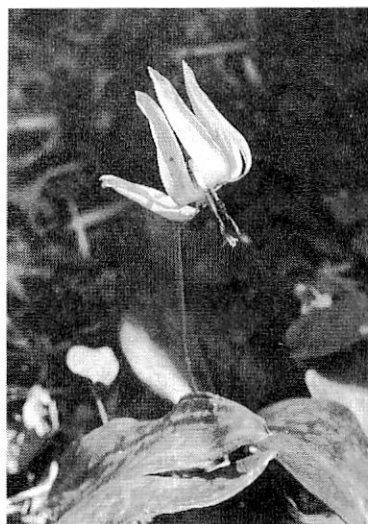
巴川に架かる橋（巴橋）下にイワツバメの巣ができつつあった。足助神社のケヤキの梢でシメが私たちのつぶさを見ていたようだ。

この日出会った鳥は、キジバト・ジョウビタキ・ウグイス・アオジ・カワラヒワ・スズメ・ハシブトガラス・ハシボソガラス・ヤマガラ・イカル・ヤマセミ・カシラダカ・ミソサザイ・クロジ等27種にのぼった。

この日の参加者は約40名であった。

西三河支部の中には西三河野鳥の会や豊田植物友の会のメンバーが多数いて活発に活動している。これらの活動を学びながら支部独自の活動を考えたいと思う。

この日、もしカタクリが咲いていたら、支部独自の「飯盛山自然観察会」をもつ予定だった。昨年、観察会後、川原で野点を楽しまれたピアノ教室のみなさん（約30人）にも声をかけて。



猪高緑地春の自然観察会

1991年3月21日(祭)

参加者32名(うち子供12名)

指導員 堀田・朱雀・浅井・妹尾夫妻・国枝・近藤盛・斎藤

内容

一般の部テーマ「春を探そう」

春の日差し・空気がやわらかく・水がぬるむ・木の芽・草の緑・蕾がふくらむ・花が咲く・スマイレの花・芳香・生き物が眠りから覚め・ちょうちょうが飛ぶ・カエルの産卵などのテーマを参加者に決めていただき観察を始める。見つかった春は、スギの花粉・ヒサカキの花・ノイバラの新芽・イボタの新芽・スマイレの紫の花・ミツバツチグリの黄の花・タネツケバナの白い花・ナワシログミの実・リョウブの虫えいのイモ虫・ヤマアカガエルのオタマジャクシ・カエルの鳴き声・ツクシなど。参加者は、春、春、春を感じとってもらえたようです。

子供の部テーマ「春と遊ぼう」

カメムシはくさいね・クヌギの殻斗と帽子あそび・カクレミノの葉っぱのお面・スギの花粉を飛ばそう・ヒイラギの葉っぱの風車・ハコベ・タネツケバナを食べよう・ササ舟づくり・オタマジャクシと遊ぼう・かけっこ・セイタカアワダチソウの背丈くらべ・花の色は何色・鳴いているトリの姿をみつけよう・粘土で顔づくり・ツクシンボウを集めよう・テントウムシを捜そう・ベンベングサの音鳴らし。子供たちは楽しかったと喜んでいました。

観察会の参加・新聞をみて来た人(2名)・朱雀さんの案内状(10名)。観察会は口コミによる人集めがもっとも有効。ただし、参加者が片寄る傾向あり。今後観察会に参加を希望する人(11名)。猪高緑地の自然を愛好する人たちと連絡をとってゆきたい。

尾張支部月例観察会結果報告

小牧市大山

1991・3・10

ポカポカ陽気の中、小牧市大山にある小牧大山愛知県自然環境保全地域周辺で月例観察会が開かれました。

集まったのは指導員14人(子供6人)に加え、今年から募集した友の会会員3人で、合計大人17人、子供6人でした。

この地域は、丘陵部にわずかに残るツブラジイの林と、何種類かの暖地性植物が目玉です。白い実のイズセンリョウ・赤い実のアリドオシそしてヘラシダを見ることができました。

参加の皆さんには、シイの林の薄暗さとコナラの林の明るさの対照がわかっていただけたと思います。

花は畑のタネツケバナ・トウカイタンポポや咲きかけのショウジョウバカマ程度で、陽差しの割に、植物達はまだ冬眠中でした。

<野鳥> ノスリ(2回)・シジュウカラ・エナガ・ホオジロ・ヒヨドリ

<越冬蝶> ヒオドシチョウ・クジャクチョウ

*報告は花粉症に泣く北岡でした。

ハックション!

年報「愛知の自然観察」原稿募集!

本年度から研究発表の場として「愛知の自然観察」を発行することになりました。原稿を広く会員の方から募集したいと思いますので、ご協力ください。

内容については、①自然観察の理論、方法の研究②自然観察会の実践研究③地域の自然に関する研究④会の活動報告⑤その他です。

執筆予定者を5月末までに決めたいと思います。各支部の協議会ニュース通信員の方まで、希望者はお申し出ください。なお、原稿の締切は明年1月31日、発行は3月の総会に間に合わせる予定です。どうぞふるってご応募ください。

OPINION

ちょっと過激な発言ですが.....

去る3月24日に開かれた協議会総会の質疑応答において、環境保護運動に対する協議会の取り組み姿勢に対する質問が相次ぎました。それらの質問と事務局の答弁を聞きながら、私なりに思ったことをまとめてみました。

＜そのⅠ＞ 会員の皆さん、もっと協議会の活動に熱心に参加しよう！

総会で協議会の基本方針云々を言う前に、少なくとも支部レベルでの地道な活動をする必要があるでしょう。

＜そのⅡ＞ 会員一人一人がオピニオンリーダーたれ！

新聞スクラップ

愛知県内の名古屋版・東三河版・・等地方版に載った自然に関わるものを紹介します。

◆埋め立てられゴミにまみれ——ため池受難◆

名古屋市東部丘陵地域のため池が激減している。緑区鳴海町徳重の県道沿いに青い水をたたえていた念仏池は、三年ほど前に不動産業者に埋め立てられ、枯れ草の空き地に変貌。水が無くなりモトクロス場になっている池もある。市土木局の統計では昭和40年に360あったものが平成元年には145まで減った。(91.2.15 中日)

◆ゴルフ場開発凍結 — 豊田市が来月から◆

豊田市の加藤正一市長が、一日開いた市議会で「4月から新たなゴルフ場開発を当分凍結する」と表明。市内のゴルフ場は、建設中を含めて13ヶ所。2番目の名古屋(4ヶ所)を大きく離して堂々のトップ。(91.3.22朝日)

◆守れ！東海の尾瀬◆

豊橋市の葦毛湿原で植生回復実験の雑木林の伐採が3日行われた。葦毛湿原植生調査団のS.51～59の調査でシラタマホシクサなどの湿原植物がアカマツ、イヌツゲなどに圧迫され、植生面積が減っていることがわかった。同調査団で

協議会の会員は、全員が自然観察指導員なのです。環境保護問題についても、各指導員が自分の身の回りで観察会を行う過程で、その意識を高めていくのが本来の姿でしょう。身近な自然観察会を通して、自然と人間の関係や自然の重要性を訴えられるだけのしっかりした意見と知識こそが、私達指導員にとって最も重要なものです。

こうした各会員の地道な努力が、協議会の力となります。環境保護も自然観察会から！これが、私達協議会のあり方ではないでしょうか。

皆さんの御意見をお待ちしています。

尾張支部 北岡明彦

は、S.63からH.1までアカマツなどを伐採して回復実験を行った結果、効果があると認められた。今回、4箇所、約450㎡で植生回復のための伐採をした。(91.3.4 毎日)

◆荒子川に熱帯魚大繁殖◆

中川区北部の荒子川一帯に、アフリカ原産の熱帯魚テラピアが大繁殖。鑑賞用に飼われていたのがすてらさた後、上流の化学工場から流される温排水に助けられて爆発的に増えたいらしい。生態系を狂わす心配もでている。

(91.3.12 中日)

◆赤潮が大発生、三河湾を染める◆

3月13日三河湾沿岸に赤潮が打ち寄せた。田原町から渥美町にかけて見渡す限り赤茶の絵具を流したような感じ。県水産試験場の話では、「三河湾のあちこちの夜光虫が風で吹き寄せられたもので、魚類への影響はない」と説明している。(91.3.14 中日)

◆ジャンボタニシ新年度から本格駆除◆

豊橋市は稲などの農作物を食い荒らすジャンボタニシ(和名・スクミリンゴガイ)を事業費六百万円を投入し、市西部地区の水路を中心に退治していく。第一回の駆除は、産卵の始まる五月を予定。西部農協に委託し175人が集団で巡回し見つけ次第、手で駆除する。

(91.3.19 中日)

～お知らせ～

1. 会員異動

- ・加入 山原勇雄 (西三河支部)
村瀬正成 (尾張支部)
- ・脱退 石原 勤 (尾張支部)
渡並喜一郎 (名古屋支部)
花木康雄 (尾張支部)
馬淵三喜夫 (西三河支部)

2. 出版のお知らせ

会員の多くが参加している豊田植物友の会が「四季の詩、豊田植物友の会20年の記録」を出版しました。都合により店頭販売はしません。ご希望の方は下記までご連絡下さい。

〒471 豊田市美里3-22-19 三津井 宏

3. 訂正のおわび

32号表紙文中、「葉表は密毛・・」→「葉裏は密毛・・」におわびし訂正します。

支部だより・他団体の機関誌より

本会の会長である大竹勝さんは、犬山発自然情報「Naturing」を発行されています。

4月20日のNO. 6からその一部をご紹介します。

タカの情報

東大演習林の小島宏さんによれば、4月10日に今井の開拓パイロットでチョウゲンボウを観察されたそうです。先日、善師野でタカの写真を撮っている人に話を聞いたところ、オオタカとノスリ、ハイタカは見たが、今年はまだサシバ、ハチクマは見えていないとのこと。今井小学校の探鳥会では、ハイタカが確認されました。

ホタルカズラが咲きました

4月16日、帰りに善師野へ回ってみました。去年みつけたホタルカズラを見るためです。

昨年は4月12日に咲いていたのですが、今年は12日にはまだ花は見られませんでした。それから4日で3輪の花がつけました。だれがつけたのかホタルカズラの名前は、この植物にぴったりで青紫色の花弁の中心の白い星形は印象的です。この青紫の色は、カラー写真ではとても表現できません。「み空の花を星といい、わが世の星を花とい

う」。土井晩翠の詩に出てくるわが世の星とは、まさにこのためにうたわれたようです。近くではヒメウズ、ムラサキケマンの花も観察しました。

春の蝶

4月5日、善師野でツマキチョウを観察しました。モンシロチョウに比べやや小さく、弱々しい飛び方です。雄の羽の先端にあるオレンジ色の小紋は印象的です。この繊細な蝶は春にしか見られません。水田の耕作面に多いタネツケバナを食草とするこの蝶は、タネツケバナが耕作で姿を消す前に卵を生み、幼虫は成長して蛹になります。蛹の状態ですら春まで長い眠りにつきます。このような生活型を持つ蝶は、もしかしてイネの渡来ころの外国からの移住者かもしれません。興味深いのは、この蝶が山際で見られることです。塔野地の広がった水田ではタネツケバナが幾らでもあるのに、ほとんど見られません。犬山で春にしか見られない蝶は、ミヤマセセリ、コツバメ、ギフチョウがあります。

4月12日に池野の雑木林でギフチョウが飛んでいて、コバノミツバツツジで吸蜜しているのが観察できました。春の女神と呼ばれる黒と黄色のだんだら模様のこの蝶も、カタクリと同じ夏緑林の生き物です。犬山では広見線より南の東部丘陵にしか分布しません。食草はヒメカンアオイとスズカンアオイで、いずれも古い植物で、長い歴史をギフチョウとともに生きてきました。このような自然を後世に残しておきたいものです。



カメノコテントウの記録

4月12日、善師野でカメノコテントウを見つけました。犬山のテントウムシで一番大きな種類です。犬山では継鹿尾、八曾、神尾でしか記録がありません。善師野では初めての記録です。継鹿尾ではクルミハムシの幼虫を食べていましたが、この地域にはクルミハムシがいないので、何の幼虫を捕食するのでしょうか。興味があります。



「名古屋支部だより」より

1991年4月8日 No.Ⅲ-1

NAGOYA支部だより (代表 浅井聡司)

なんじゃもんだ通信

私たちの生活は、都市文明と切り離されたところでは、もとは成立しない。しかし、そんな生活の中でも、自然を友達にしている人と出会うと、何年来の故知に出会った気持ちになるのはなぜだろう。私には説明できない。貴重な自然を守りたい。それは、私たちの共通した祖先を守ることにつながるのではないだろうか。そして、私たちの共通した子孫を育てることにつながるのではないか。説明できないけれど、何かそこには言葉でつたえられないような共通した認識があるように思われる。自然観察指導員はボランティアだなんてウソぶいていたが、仕事とか家庭とか犠牲にしてまですることは無いと思う。犠牲にすると考えていたら、しない方が良く。都市文明の中で暮らしている私たちにとって、自然と触れ合う時間をもつことは、生活の中にゆとりをもつことにつながる。ゆとりがない生活が豊かな生活といえるだろうか。私は、会員のみなさんが観察会に参加することを強要したくない。というのは“自らが関わる”という気持ちがなければ、自分にとってプラスにならないと思うからです。今年は、ひとりでも多くの会員の参加を期待してやみません。

桜の花が咲いています。いっしょに見に行きませんか。

渥美自然の会「渥美の自然と保護 NO.6」91.4.20 発行より

「日本シデコブシを守る会」結成される

一昨年、岐阜県東濃地方に「シデコブシを守る会」が結成されたことは既にお知らせしましたが、昨年8月18日に団体加盟制の「日本シデコブシを守る会」に改組されたとの連絡をいただきました。会長は糸魚川淳二氏（名古屋大学教授）、事務局長は山口清重氏（大湫植物園長、瑞浪市）、発足時の加盟団体はシデコブシを守る会（中津川市）・恵那シデコブシ保存会（恵那市）・瑞浪市シデコブシを守る会（瑞浪市）・みどりの会（多治見市）の4団体です。私たち渥美自然の会も加盟するとの話し合いが進んでいます。既に3月31日の「現地視察交流会」の場で活動報告をしていただきましたが、今後一層の協力を深め、シデコブシ保護のためのシンポジウムが開催できることを望んでいます。

なお、日本シデコブシを守る会では相当規模のシデコブシ自生地がトヨタ自動車会社のゴルフ場造成により失われる事態に直面したため、国内外の大学や植物園に保護の取り組みへの支援を訴える手紙を出しました。そうしたところ、アメリカ、イギリス、オランダ、韓国、ニュージーランドほか多数の国々の樹木学者などから賛意が寄せられました。

次のページは、自然観察指導員山梨県連絡会の機関誌「ノラ・やまなし通信190」です。

ノラ・やまなし通信190

新米Mamaと環境問題 19-ト2

～紙おむつ編～

ノラやまなし12月号(?) 読みました。で、植原さんのスキ一の話(175,176のP自然保護なのにスキーしていいの?)読んで、「あへ、似てる」と思、たので、おたよりします。

私、紙おむつ使、てます。(いえ…私ではなく、鳥子ですネ)夜だけ。

夏の間は夜もエヘンエンと起きて、ウアウアミルキを飲んでいたので、その時々ムツもかえるといふことで、紙おむつは使、てなめ、たんです。ところが、夜中にミルキを飲まなくなったり寝るようになって、まあ、夜中においと人までぐっしょりで、体が冷えていいるのですよ。こりゃたまなんない……この子も、着かえさせざる私も、おいとん干しも……と、紙おむつ!!

でも「1度使、てポイ」おなだたぬひな。でも、これ、って必至最小限に有効利用だよ、うん!

とは言、ても、昔はなか、たんだよね。でも、今あ、て、赤ちゃんに良ければうまく使うのもいいじゃん!……等々、自分自身モンモンとしていたのですが、このごろでは、ありがたく1日1枚! 使わせてもら、ています。おかげで母親も子どもも夜ぐすり、朝さわやか〜! あ、父親も!

せんたくしてパリッとかわいたオムツはやはりキモチいい。子どもはどう感じてるか、わかんないけど。(紙おむつ。で、ホント、いくらおし、こしてもおしりサラサラ。CMの通りなのよ。オドロキ)

注意、紙おむつの話には余談もあるのですよ。オカシ〜の!

〜使、てはみたが、紙おむつの処理に困、た母さん……〜

埋めてもどへも生ゴミのようではないし、水がいへ、ばい含んでいいるから焼けないし……町ではどうしてゐるんだろ?と町役場に聞いてみた。

「紙おむつはどうしたら……」

「燃えるゴミとリッショに出して下され。」

「え、あれ燃えないじゃあ……」

「え〜……でも、いいです、出して下され」

「はい、わかりました。」

そ一言えは寂寂でも紙おむつで、アし、町のゴミ袋に入、てたな〜などと思いつつ「ゴミに出すかあ……あれ、待てヨ。こっ、こってゴミの収集車、来たっけ?」地域のことにうとい私は葉母に聞く。「不燃物は来るけど、可燃物は来ていないみたいたよ。この辺では、みんな、うちで処理できるから。」

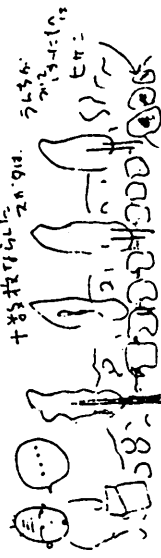
「生ゴミ→畑、燃えるゴミ→焼く」と、みへんなおうちでできてしまうすばらしい地域なので、収集車は来ても拝、てゆくものがないんです、可燃物は。

と、前おきが長くな、たけど、結局、私は紙おむつを干して燃、てい、るのです。ぬらすのは1晩です、かわかすのは2週間以上もかかる。

「あへ、今日も取りこぼの忘れた!」……←なんてことも度々あるので、なお軽がな。あの高み多吸収体、てスゴイですね、ま、たく。

紙おむつを干す風景——うへ、なんと。おじいちゃんやひいおじいちゃんかけがえのない思い出で見て通りま
すか、何も言、いません。

(構形町の青木ゆかさん)



高温にすれば水分も蒸発して燃えるんだろな、生ゴミも燃えてるみたいだし

〇〇

リッショ

廃品を利用した実験観察器具等の工夫

竹内哲也

ある印刷機のインクのカセットケースは、石油を原料とした物であり、どこの会社でも官公庁でも不用品として捨てられているのが実情ではないでしょうか。この容器を自然観察や実験器具として再利用すれば資源保護になり自然保護につながる教育の一端と考えて、次のような物を試作しました。

観察用虫かご 水性生物用いけす 海岸用砂ふるい 観察用水眼鏡 簡易水温計のケース 汚水濾過実験装置 水田用メタンガス測定器 環境制御生物飼育容器 菜びん保護ケースなど 制作品に適当な名前を付けたので高級な器具と誤解されそうですが笑われそうな物ばかりです。幾らか役に立てばと思い4回に分けて紹介します。

<観察用虫かご>

自然観察の本命は、あくまで自然に手を加えないで素直にありのままを観察することだと思いますが、昆虫などの細かな部分の形態観察には、捕らえ容器に入れ間近に観察することも大切な事と思います。虫などを生きている時点で元の場所に逃がしてやる自然への理解と思いやりと勇気を指導したいと思います。そのために自作の虫かごに誤解のないように次のような表示をします。

「観察がすんだら生きているうちに元の場所に逃がしてやりましょう」



作り方と使い方

円筒の部分を適当な長さに切断して蓋の部分に廃品の網戸の金網を半田鋸で熱溶着する（過熱しているときの煙り・・・気体をすわないように）

円筒の上下に網を着けると水性動物の生簀として利用できる。観察会の事前調査時に採集しておいて、参加者に示すような方法はどんなものであろうか。欠点として、蓋の開閉は幼児には困難である。

<砂ふるい>

アリジゴクの幼虫を観察したり、海岸の土壤生物を定量調査するとき携帯に便利なふるいを網目のサイズを変えて加工する。作り方は、虫かごと同じ。使い方を工夫すれば様々な観察指導に役立つのではないかなと思う。

子供に観察の道具を持たせると生き生きと活動する。壊れても失えてもほしくない自作の観察用具の研究はいかが。

次回は観察用水眼鏡と簡易水温測定器の予定

編集後記

多くの方から原稿をお寄せ頂き感謝しています。編集方針として、頂いた原稿の全てを載せるべく努力していますが字数の関係で時として割愛させて頂くことがあり申し訳なく思っています。印刷屋に頼んでやると4の倍数のページ数にしなくてはならないという足枷があるためです。今回は、協議会行事報告、香嵐渓探鳥会報告は執筆者のワープロ原稿をそのまま縮小し使

わせてもらいました。お陰でスピーディにできました。

隔月発行の意味は情報源として役立つことにあります。どんな情報でも結構ですので支部通信委員又は、下記までお知らせ下さい。

〒440 豊橋市多米中町1-12-3 神戸 敦
☎ 0532-62-5308

観察会の御案内

(5～7月)

- ①主催 ②集合場所・時間 ③照会先
④観察会のねらい ⑤参加資格・費用
⑥備考

5月12日(日) 犬山市善師野観察会

- ①尾張支部(犬山市委託)
②名鉄広見線善師野駅前 9:00
③大竹勝 ☎0568(61)3659
④5月の里山で見られる動植物の生活
⑤犬山市へ申し込み・無料
⑥指導員の参加大歓迎

5月12日(日) 東海市観察会

- ①東海市 ②東海市大池公園AM9:30～13:30
④春の野草と樹木を散歩しながら見よう
⑤公募・無料

5月19日(日) 蒲池海岸観察会

- ①知多支部

5月26日(日) 豊田市自然観察の森観察会

- ④帰化植物は自然破壊のバロメーター
⑤豊田市自然観察の森 ☎0565-88-1310

5月26日(日) ベイトトラップと昆虫観察会

- ①知多地方自然観察研究会
②半田市文化広場駐車場9:30

6月2日(日) 全県一斉自然観察会

- 尾張支部 —— 小牧大山・物見山
名古屋支部 —— 平針の針名神社
知多支部 —— 任坊山
西三河支部 —— 豊田市自然観察の森
東三河支部 —— 普門寺
奥三河支部 —— 名古屋野外学習センター

6月9日(日) 岐阜県大井川ブナ林観察会

- ①尾張支部 ③長尾 智 ☎0568-82-7124
④裏日本型ブナ原生林を歩く(ブナ・チシマザサ群集)

6月23日(日) 豊田市自然観察の森観察会

- ④すぐれた自然環境を示す昆虫達
⑤豊田市自然観察の森 ☎0565-88-1310

7月7日(日) 石巻町玉川観察会

- ①東三支部 ③戸加里光雄 ☎05338-6-0579
④梅雨時の川と林と田の様子
⑤一般公募

7月14日(日) 稲武町面ノ木峠ブナ林観察会

- ①尾張支部 ③平井直人 ☎052-502-1020
④表日本型ブナ原生林を歩く(ブナ — スズタケ群集)

7月28日(日) 阿久比川観察会

- ①知多地方自然観察研究会
②阿久比町中央公民館 8:30
④阿久比川の生き物

7月28日(日) 豊田市自然観察の森観察会

- ④何がいるかな?樹液に集まる昆虫達
⑤豊田市自然観察の森 ☎0565-88-1310

7月28日(日) 宇連川支流自然観察会

- ①奥三河支部 ②三河川合駅前

研修会の御案内

- ①主催 ②場所・時間 ③照会先
④会のねらい ⑤参加資格・費用
⑥備考

6月14日(金) 池・川の生物室内研修会

- ①知多地方自然観察研究会
②生物の観察

7月12日(金) 室内研修会

- ①知多地方自然観察研究会
②阿久比町中央公民館18:30～
③灯火に集まる虫を調べたり、虫の声を聞く

7月14日(日) 会員研修会

- ①東三支部
③中島徳男 ☎0532-55-5438
④海岸の生物の観察

7月20日(土)～21日(日) 昆虫観察研修会

- ①協議会 ②面ノ木峠駐車場 夕方5時
③北岡明彦 ☎0561-84-2953
◎宿泊はテントです。詳細は7月号で。